

令和元年度第 2 回緑地保全対策審議会、第 1 回緑の基本計画策定委員会 意見対応

赤字：対応方針

1. 基本施策についてのご意見

●基本方針の考え方について

【緑対審】

小山副委員長：今回の計画は 3 つの基本施策は引き継ぐのか、それともこの 3 つも見直すのか教えてほしい。

犀川委員：今の基本方針でも色々な要素が盛り込まれており、私は(現在の 3 つの基本施策を引き継ぐので) 良いと感じる。

⇒改定にあたり 3 つの基本施策は引き継ぐが、内容をブラッシュアップすることを想定する。

●市民参加から市民協働の時代へ対応する必要がある

【緑対審】

小山副委員長：基本施策 3 の市民参加であるが、現在は市と市民を分ける時代ではないと考える。協働していく方向性を明記していく必要があるのではないか。

【策定委員会】

小木曾委員：「市民参加」ではなく、「市民協働」という発想で、市民の力を借りていくことが重要であると考えている。

⇒現行計画の基本施策 3（市民参加）について、改定計画では、参加から協働へ、1 段階上げられる施策内容を検討する。

●みどりを「活かす」施策を充実させる必要がある

【策定委員会】

笠原委員：現行計画の 3 つの基本方針では「活かす」という言葉が使われているが、改訂方針案では緑の活用に関する取り組みが見られないように読める。

福島委員長：ご指摘のとおりであり、今後の要検討事項と言えるだろう。

⇒どのように使われるかを示すとともに、市民の関りを高めていくみどりの施策を充実させる。

2. みどりの実態調査に関するご意見

【策定委員会】

福島委員長：みどりの実態調査報告書は、緑の質の問題については触れられていない。小金井のみどりは、大きなまとまりのあるものでは小金井公園と玉川上水、国分寺崖線、野川等が挙げられる。中くらいのものでは、公共緑地や大学等のみどり、さらに小さいものでは街路樹や保存樹木等があるだろう。それを区分せずにくくりで評価するのはいかがなものか。実際には、屋敷林などの小規模なみどりは、市民にとって身近なものであり、重要な要素であると認識している。

⇒生態学的視点から文献調査を追加する。

3. 基本施策1(守る)に関するご意見

(1) 環境保全等の観点について

●継続して取り組むべき施策

【緑対審】

小木曾委員：玉川上水、国分寺崖線、野川は重要である。市民の方も7割が素晴らしいと言われる緑を大切にしていける必要がある。

【緑対審】

上中委員(東京都)：温暖化防止や雨水対策については引き続き取り組んでほしい。

⇒現行計画に引き続き、玉川上水や国分寺崖線、野川は軸に位置づけ保全する。

⇒グリーンインフラの観点の強化に合わせて、雨水対策等に対応したみどりの創出について、基本方針や施策等に記載する。

(2) 樹林地・農地の保全について

●樹林地・農地の保全、活用をすすめる施策を検討すべき

【緑対審】

串田委員：みどりを本当に守りたいのであれば、所有者と市とが話し合いアイデアを出し合うべき。

実際に武蔵境や埼玉の方などで樹林地を守ってきた事例がある。こういった事例も参考に真剣に取り組む必要がある。

【策定委員会】

椿副委員長：今あるものをどう活かしていくのか、という視点は重要であると思う。新しいみどりを創出すること以上に、今あるみどりを今後につなげていくことは重要である。

⇒現行計画の基本方針を引き継ぎ、保全・活用と創出を基本方針(1と2)に位置づける。

目標値の設定や具体施策を検討する際に、今あるみどりの保全・活用と新たなみどりの創出のあり方(両方できるのか、どちらかに絞らざるを得ないのか、絞るならどちらに絞るのかなど)について議論、検討する。

具体的な施策については、他都市の事例も参考として検討を行う。

●相続税による樹林地や農地の減少を抑える対策が必要である

【緑対審】

大澤委員：環境緑地が減っていくのはほとんどが相続の問題である。市から国へ働きかけることはできないか。

【策定委員会】

大澤委員：失われた農地の多くは相続税の問題が大きい。こうした農地を残していくには、農業を存続しやすい環境・支援を整える必要がある。農家は屋敷林を持っている方も多く、すでに環境緑地制度を活用させていただいているが、より一層の支援をお願いしたい。

⇒農業振興計画も改訂予定であることから、農地関係の具体施策については農業部局とも連携し

て検討を進めていく。

4. 基本施策2(つくる、育てる)についてのご意見

(1) みどりの質について

●小金井市にとって緑の質とは何か踏まえて計画を策定することが重要である

【策定委員会】

串田委員：緑の基本計画は、通常概念的な話書かれると認識している。緑の質について、みどりの基本計画で述べることは可能なのか。

福嶋委員長：緑の質について、基本計画においてもある程度整理しておくべきではないか。

益田委員：みどりは地方に行けば山ほどあるが、小金井という都市において、人が入ってくればみどりは減る。みどりとの調和、暮らしとの調和を意識する必要があるのだろうと思う。各立場からみどりを守るメリットを考え、暮らしの中でみどりがどのように活躍するかを描くことができれば、自ずとみどりを守る意識が醸成されるのではないか。

椿副委員長：みどりは規模だけでなく、利用のされ方、管理形態も多種多様である。質については、個々人の価値観によって、何を良しとするのか様々な意見があるだろう。重要かつ難しい問題であると感じた。

⇒次期計画では、みどりの立地や種別、利用形態等からいくつかのタイプ分けをし、各みどりに求められる機能(役割や使い方)を整理することで、緑の量だけの評価に留まらない方向性の提示を目指す(将来像や配置方針の記載に反映し、さらに施策において具体的に検討する)。

(2) 公園について

●市民意見を反映した公園の利活用の推進が必要である

【緑対審】

串田委員：私が活動する梶野公園もそうだが、栗山公園にしても使うのは遠くの人ではなく近隣住民である。近隣住民の意見が大事であり、こういった声を活かしていく制度としないとただある公園になってしまう。

柏原委員：公園に関するWSを昨年行ったが、ただあるだけの公園がたくさんあるという課題が上がった。これについては、地域の方が使う場所になるよう交流や展示に使いやすい仕組みを市から市民に積極的に提案していただきたい。

⇒梶野公園サポーター会議の取組は地域の住民の意見を反映した公園づくりや利用につながっているため、今後も他公園へと施策展開を進めていくことを示す。

●管理コストにも配慮した公園の植栽整備・管理を進める必要がある

【策定委員会】

笠原委員：市内の公園については、小さな公園に大木が植えられているなど、植栽のあり方に疑問を抱くことがある。適材適所な植栽が必要であると考えている。

福嶋隆委員：市には緑のメンテナンスコストも意識してほしい。

⇒みどりの創出のみでなく、各公園の役割・あり方等を考慮の上、管理コストや景観にも配慮して、小金井市公園等整備基本方針（平成31年3月策定）も踏まえ、「都市公園の整備及び管理の方針」を示す。

（3）小規模住宅のみどりについて

●開発に対してみどりを確保することができる施策の検討が必要である

【策定委員会】

福嶋隆委員：開発自体を止めることはできないが、例えば新築された住宅に生け垣を取り入れてもらうなどは考えられるのではないか。既存制度の助成金額は大した額ではないが、広く普及することで安全性の確保と緑の確保につながるのではないか。

⇒宅地開発にかかわる緑化基準の引き上げについて、規定の改正を具体施策として挙げる方向で、まちづくり推進課と協議・検討を進める。

5. 基本施策3（市民協働）についてのご意見

（1）表彰制度について

●表彰制度の可否について検討する。実施する場合は広く周知されるよう仕組みづくりが必要である。

【緑対審】

串田委員：表彰制度については、表彰状を渡すだけではいけない。例えばどこかで太陽エネルギーを作っている家にマークを付けたりしているが、広く周知されるような仕組みが必要。

柏原委員：表彰制度については、自分は表彰されたくて活動しているのではないので、あまりどうかと思う。いずれにしろ、市民にやってもらうだけではなく市が積極的に働きかけることが重要。

小木曾委員長：私は表彰制度があると良いと思う。色々な分野の人にスポットライトが当たると良い。

⇒表彰制度の在り方について、今後検討を深め、施策として示す。

（2）ボランティア活動等の支援について

●ボランティアの方の人材確保や多世代の参加を進めること。また、知識や技術を伝えるなどのシステム構築が重要である。

【緑対審】

上中委員（東京都）：ボランティアの高齢化についても課題と感じている。里山や保全地域の維持には人の手が必要である。

犀川委員：ボランティアの方によってみどりが守られているが、ボランティアの方が守るべき植物を知らず活動していることがある。外来種などの守ってはいけない種のリストを作成してボランティアの方に渡す勉強会を開催するなどの取組が必要である。⇒小木曾委員長：改訂方針の「守る」の生態系に関する方針に記載を加えること。

上中委員（東京都）：近年、虫が触れない子供も増えているが問題と感じており、担い手育成はぜひ

取り組んでほしい。

【策定委員会】

鳥羽委員：活動の一環で三鷹市を視察したが、ボランティア育成、子どもたちへの環境教育に対して、非常に熱心に取り組んでいた。小さな子どもたちへの環境教育は重要と考える。植物で遊べる公園を作ることで、子どもたちと一緒に花を育てる気持ちを共有したい。小金井市も三鷹市と同じように、ボランティアを育てる仕組みづくりを検討してほしい。

⇒ボランティア活動の支援として人材育成につながる仕組みの導入を検討、施策として盛り込む。

⇒子どもの教育について、施策に取り入れていく方法を検討する。

【策定委員会】

小木曾委員：「市民参加」ではなく、「市民協働」という発想で、市民の力を借りていくことが重要であるとする。

尾路委員：植えるものはサツキやツツジなど安いものになってしまっても仕方がないが、それをいかに大切にすることが重要であると思う。管理するコスト、植物を維持する人を大切にほしい。小金井市民は、みどりに対する情熱のある方が多いと思うが、実際にどのように関われば良いかわからない、プランター緑化をした際、土を捨てられないのが困るなどの課題が、活動への参加を阻んでいるように思う。市民目線で方策を考えることで、市民のやる気が継続できるような、持続可能な緑化をしていけたらと考えている。

⇒冒頭にもあるように、参加から協働へ、1段階上げられる施策内容を検討する。

6. みどりの基本計画、みどりの実態調査報告書の普及についてのご意見

●市民が見やすい計画書とするべき

【緑対審】・【策定委員会】

小木曾委員：緑の基本計画は基本的に認知度が低い。若い人から高齢者まで様々な人が緑の基本計画を知っていると回答するような計画にしてほしい。

【策定委員会】

椿副委員長：みどりの実態をより多くの市民に知ってもらいたい。みどりの実態調査報告書も、報告書のままではもったいない。小金井市民は意識の高い方が多いため、市民団体の活動紹介等、情報発信の機会を作って、潜在的な協力者を巻き込んでいけたらと思う。

⇒概要版としてイラストを用いた分かりやすい資料を作成する。

⇒計画書についてはパブリックコメントに合わせてオープンハウスによる周知も予定している。